

令和6年度 坂城町新複合施設 基本設計業務委託

基本設計書（概要版）

2025.3

 宮本忠長建築設計事務所
TADANAGA MIYAMOTO ARCHITECT & ASSOCIATES



西側から建物を望む（鳥瞰）

多世代が気軽に交流して、生きがいを持てる、まちの居場所

坂城町らしい街並みや歴史的な特徴を活かし、人々が日常的に行き交う、地域に深く根差した施設を計画します。

01 坂城町の歴史からひも解く

坂城町は、かつて北国街道随一の賑わいを誇った坂木宿として、経済や交通等の都市機能を持つ拠点として発展してきた歴史を有しています。坂木宿は、横町・立町・新町等の町が「曲尺手（かねんて）」で接続され、個性ある町が連なりながら、魅力的な都市空間を形成していました。また、そこへは「枅形（ますがた）」を通して出入りがされていました。さらに、町の構造の中核として「曲尺手（かねんて）」を取り入れることで、統一感と調和が生まれ、住民や訪問者にとって分かりやすく魅力的な都市空間を形成してきました。現在でも「曲尺手」に沿って並ぶ民家や店舗の街並みから、かつての宿場町の面影を感じることができます。

曲尺手(かねんて)とは？

曲尺手は、宿場町に見られる構造で、道を曲げることで多くの店舗や民家を配置し、商業活動を活性化させました。また、曲尺手は人の動きを促し、人が集まる場所を創り出し交流を促進する役割も果たします。



江戸期の坂木宿の絵図



北国街道の絵図

02 計画敷地と周辺施設との関係性

- 計画敷地は、坂城町都市計画マスタープランにおける市街地エリアの中心に位置します。高齢者だけでなく、近接する坂城中学校からも利用者が多く、子どもから大人まで様々な世代が集まりやすい場所です。
- 周辺には住民活動に根ざした文化センター、図書館、格致学校などの文化施設や、体育館、グラウンド、武道館などのスポーツ施設があります。
- そのような施設群の中心に立地する新複合施設には、現代の曲尺手として各施設を結びつけながら多様な機能を付加することで都市機能の充実を図ると共に、現代の枅形として公共施設群の玄関口となることが期待されています。



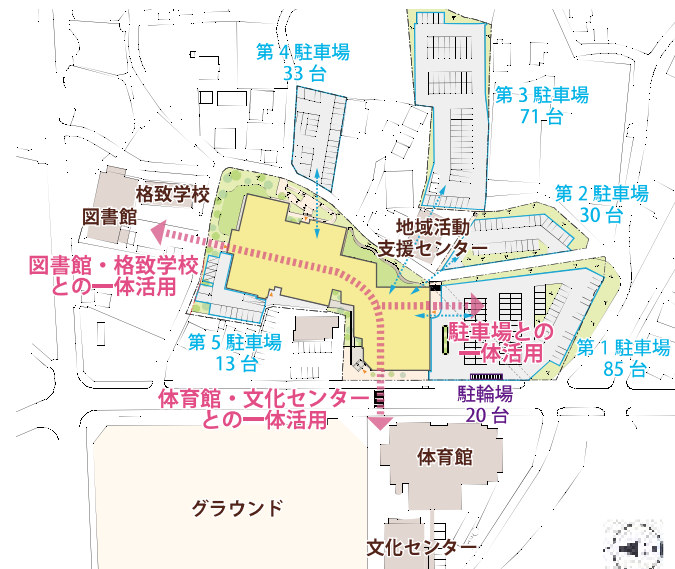
文化センター・体育館



図書館



格致学校



03 目指す施設像

「多様な人の居場所になる施設」

多世代で会話が生まれやすい交流の場を創出します。空間が広がる分節にはふと足を止めたくなる“たまり”をつくり、元気な人から悩みを抱える人まで多様な利用者が共存し誰もが自分に合う過ごし方ができるよう配慮します(well-being)。また、木材を使った設えとすることで自然のぬくもりを感じられる空間とし訪れる人々に落ち着きと癒しをもたらします。

「使いやすい施設」

物理的・心理的な障壁を感じさせず、誰もが快適に利用できるユニバーサル設計とします。エントランスは第一駐車場と同じ高さとし、段差のない動線とすることでスムーズな入館のできる計画とします。施設内も階段やEVに頼らないフラットな構成とすることで、すべての人がバリアを感じず自由に行き交い、のびのびと活動できる空間をつくります。

「分かりやすい施設」

シンプルで直感的なゾーニングとし、館内の要所にはアイストップとなる印象的な設えを施します。視覚的な誘導性を高め、訪れた人々の記憶に残る空間を演出します。木材を基調としたデザインが温かみを感じさせ、まるで坂木宿を歩いているかのようにさまざまな風景が次々と目に飛び込んでくる、そんな発見と楽しさに満ちたデザインとします。

04 デザインコンセプト

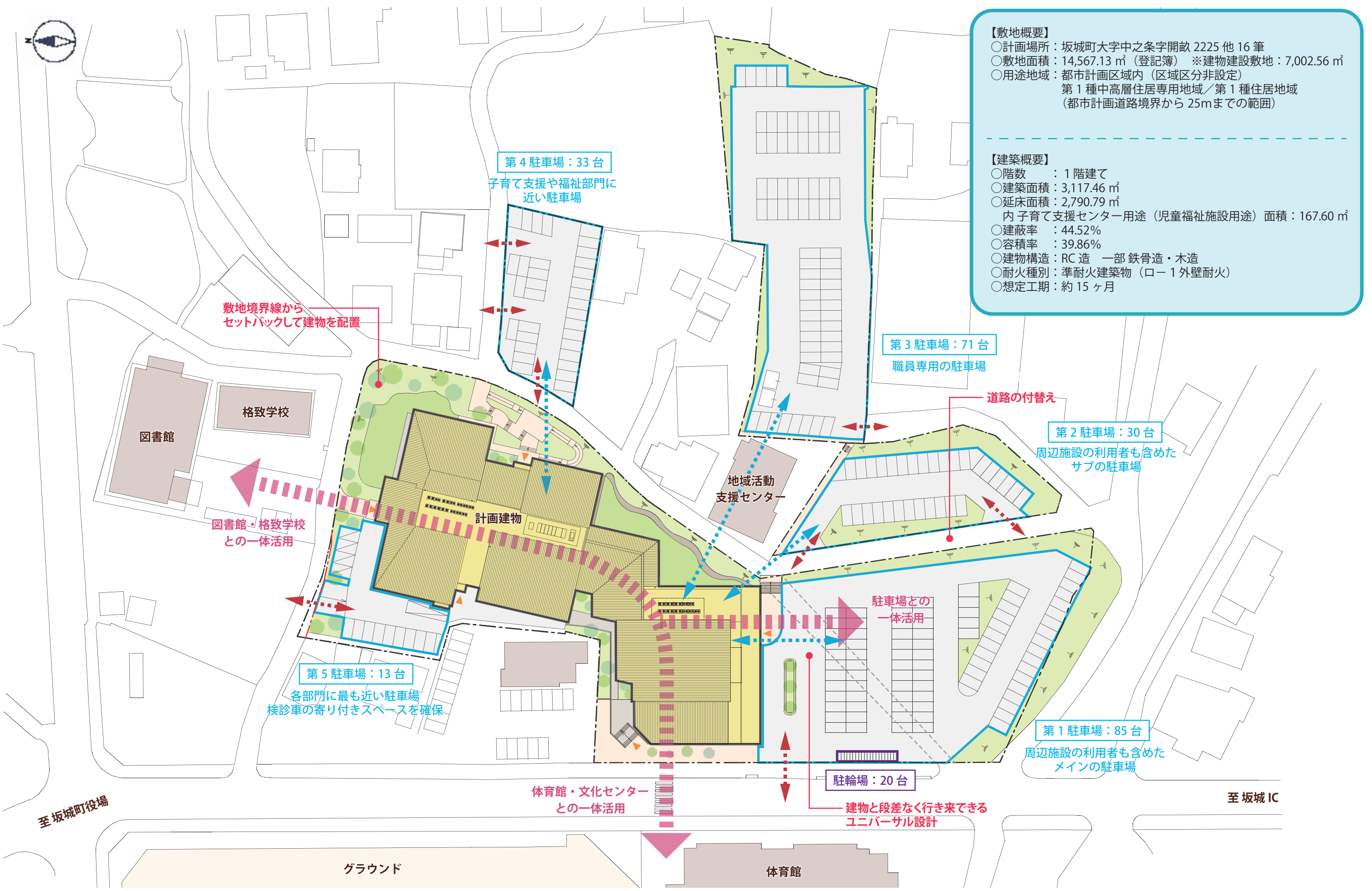
- 外壁にはシンプルかつ存在感のある鉄筋コンクリートの壁を採用し、伝統的な小屋組みの温かみを融合させ、坂城町の歴史ある街並みと美しく調和するデザインとします。
- 打放し仕上の鉄筋コンクリート壁は、かつての城下町が持っていた防御の役割や歴史的な趣を現代のデザインに落とし込み、直線的でのびやかな造形を強調します。小屋組みの木造部分は、自然素材ならではの質感と温もりをもたらし、住民や訪れる人々に安心感と快適な空間を提供します。
- 屋根形状は、宿場町のような景観を生み出すため、建物のボリュームを曲尺手に沿って分節配置し、それぞれに勾配屋根をかけます。また、夜間には木組みの陰影が際立つ、幻想的な雰囲気を演出します。



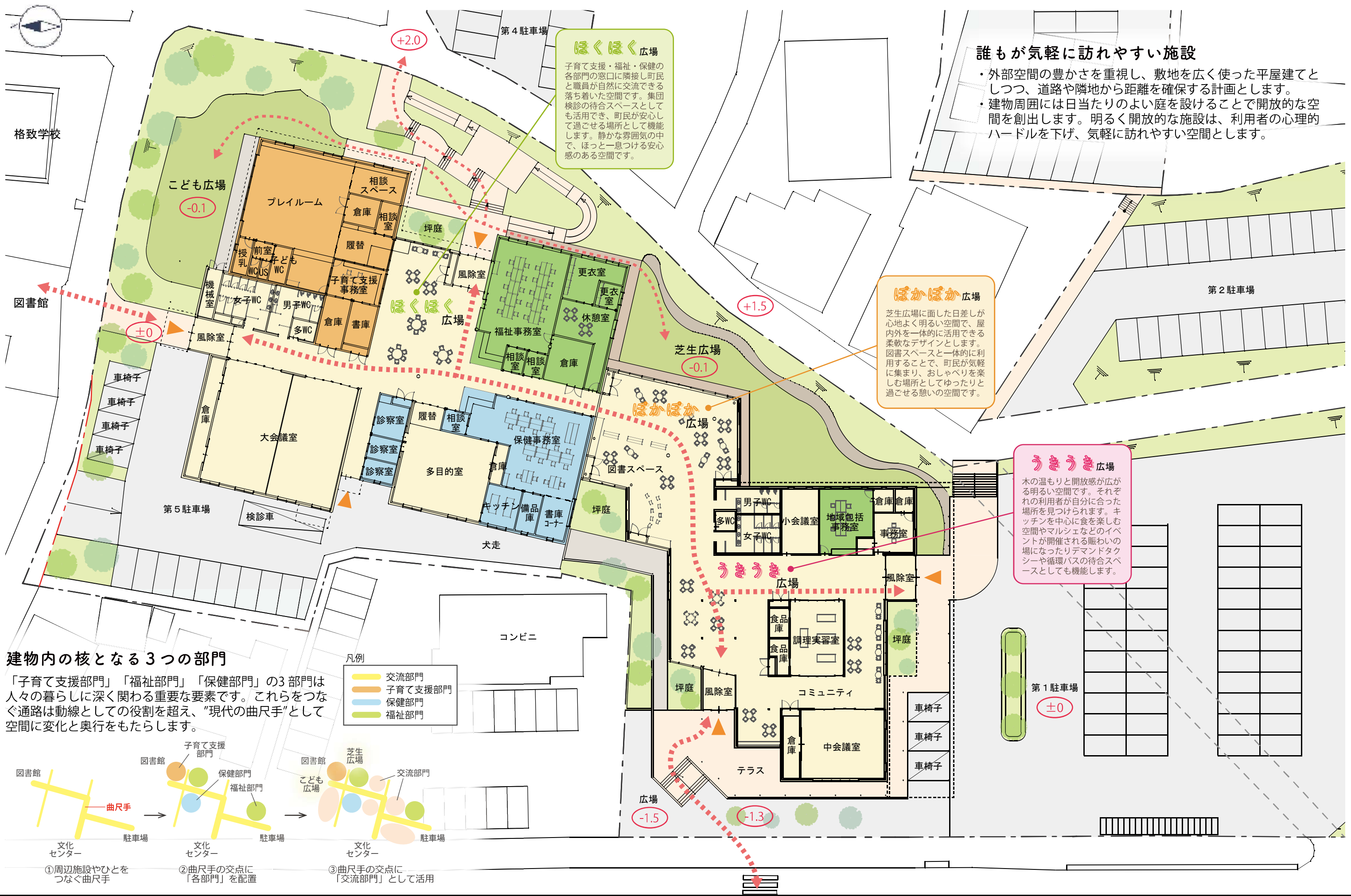
宿場町を想起させる屋根形状と豊かな外部空間



木造の小屋組みを活かした温もりある空間



- 【敷地概要】
- 計画場所：坂城町大字中之条字開畝 2225 他 16 筆
 - 敷地面積：14,567.13 ㎡（登記簿）※建物建設敷地：7,002.56 ㎡
 - 用途地域：都市計画区域内（区域区分非設定）
第1種中高層住居専用地域／第1種住居地域
（都市計画道路境界から25mまでの範囲）
-
- 【建築概要】
- 階数：1階建て
 - 建築面積：3,117.46 ㎡
 - 延床面積：2,790.79 ㎡
内 子育て支援センター用途（児童福祉施設用途）面積：167.60 ㎡
 - 建蔽率：44.52%
 - 容積率：39.86%
 - 建物構造：RC造 一部鉄骨造・木造
 - 耐火種別：準耐火建築物（ロー1外壁耐火）
 - 想定工期：約15ヶ月



誰もが気軽に訪れやすい施設

- 外部空間の豊かさを重視し、敷地を広く使った平屋建てとしつつ、道路や隣地から距離を確保する計画とします。
- 建物周囲には日当たりのよい庭を設けることで開放的な空間を創出します。明るく開放的な施設は、利用者の心理的ハードルを下げ、気軽に訪れやすい空間とします。

ほくほく 広場

子育て支援・福祉・保健の各部門の窓口に隣接し町民と職員が自然に交流できる落ち着いた空間です。集団検診の待合スペースとしても活用でき、町民が安心して過ごせる場所として機能します。静かな雰囲気の中で、ほっと一息つける安心感のある空間です。

ぽかぽか 広場

芝生広場に面した日差しが心地よく明るい空間で、屋内外を一体的に活用できる柔軟なデザインとします。図書スペースと一体的に利用することで、町民が気軽に集まり、おしゃべりをを楽しむ場所としてゆったりと過ごせる憩いの空間です。

うきうき 広場

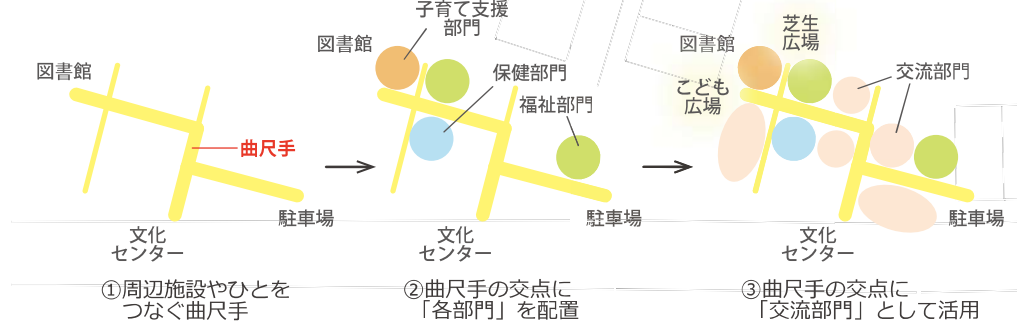
木の温もりと開放感が広がる明るい空間です。それぞれの利用者が自分に合った場所を見つけられます。キッチンを中心に食を楽しむ空間やマルシェなどのイベントが開催される賑わいの場になったりデマンドタクシーや循環バスの待合スペースとしても機能します。

建物内の核となる3つの部門

「子育て支援部門」「福祉部門」「保健部門」の3部門は人々の暮らしに深く関わる重要な要素です。これらをつなぐ通路は動線としての役割を超え、「現代の曲尺手」として空間に変化と奥行をもたらします。

凡例

- 交流部門
- 子育て支援部門
- 保健部門
- 福祉部門





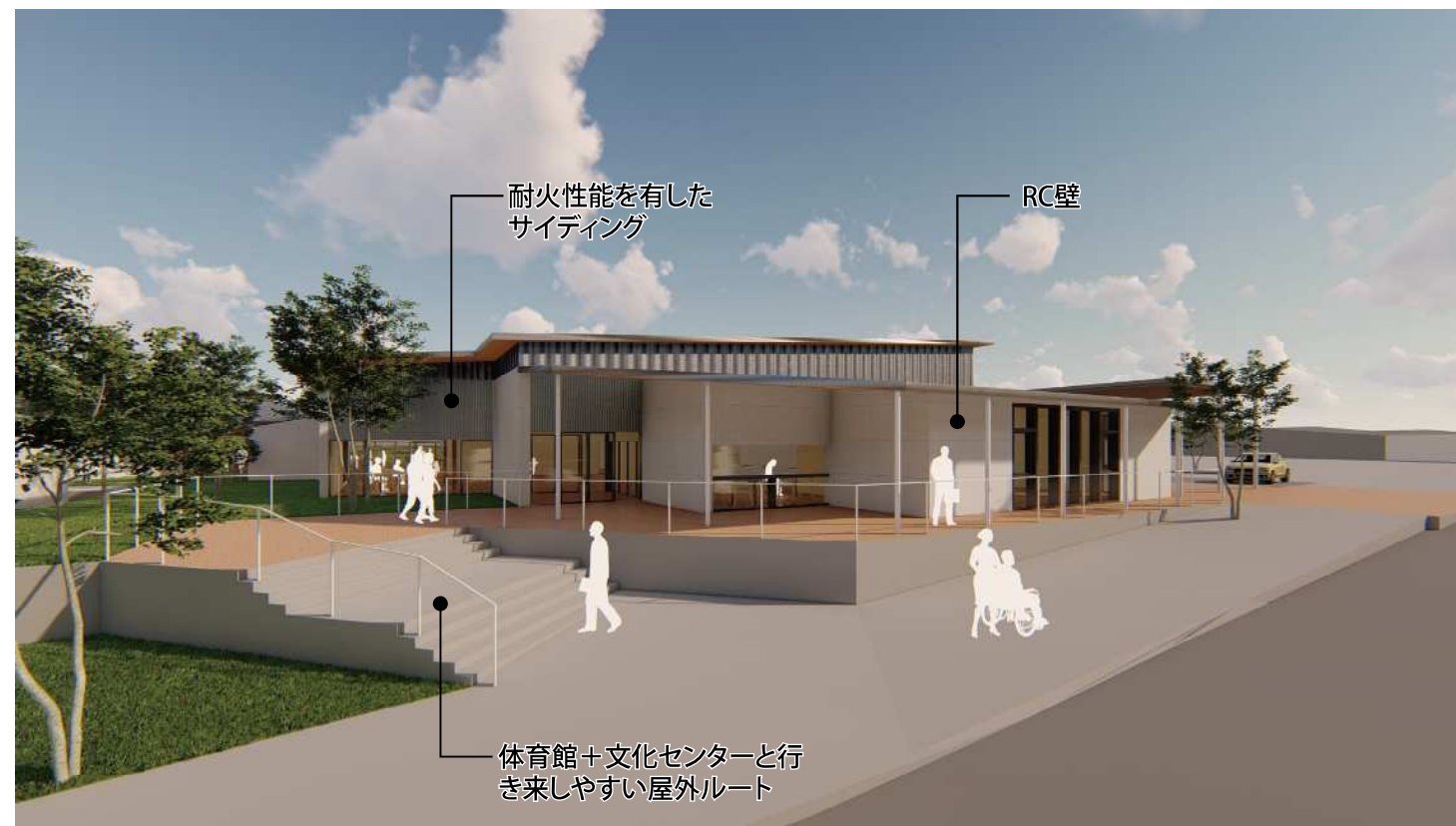
西より建物全体を眺める



北東より建物全体を眺める



南側 第一駐車場より建物を見る



西側道路より建物を見る

※実施設計段階の検討・協議により変更する可能性があります



南側のメインエントランスと車寄せの庇



ぽかぽか広場から直接外に出られる芝生広場(東側)



ほくほく広場に入るエントランス(東側)



プレイルームから繋がる、こども広場(北側)

※実施設計段階の検討・協議により変更する可能性があります



うきうき広場 南側エントランスから入る



うきうき広場 曲尺手のたまり場空間



うきうき広場 図書スペースを眺める



ぽかぽか広場 図書スペース

※実施設計段階の検討・協議により変更する可能性があります



ぽかぽか広場 外の芝生広場を眺める



天井を下げた落ち着いた空間にする



ほくほく広場 子育て支援センターを眺める



ほくほく広場 各部門の窓が分かりやすい計画

※実施設計段階の検討・協議により変更する可能性があります